

Costume and Textile

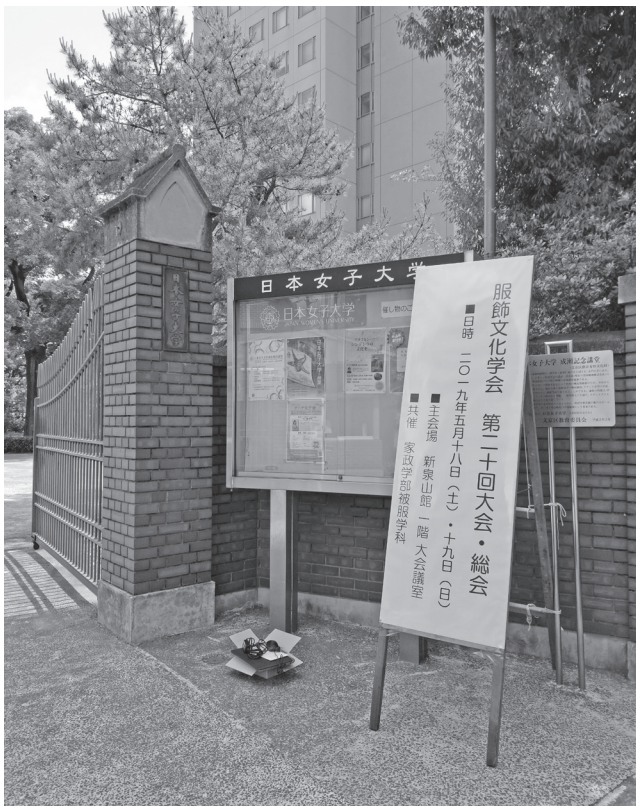
No.38

服飾文化学会会報

2019年9月

2019（令和元）年度 第20回服飾文化学会大会の報告

2019年5月18日（土）および5月19日（日）にかけて、日本女子大学目白キャンパス（主会場は新泉山館、ポスター・作品展示は百年館1階ロビー）において、第20回総会・大会が開催されました。両日とも天候にも恵まれ、多くの参加者（学会員の参加者数87名、学会員外の参加者数15名、日本女子大学学生参加数4名、計106名）を得て、盛会に終えることができました。なお、今回の総会・大会は、日本女子大学家政学部被服学科の共催の形で実施させていただきました。



大会会場

1. 口頭発表、作品、ポスター展示発表

研究発表件数は、口頭発表12件、作品展示発表7件、ポスター発表1件の、合計20件でした。長崎巖会



ポスター・作品展示会場の様子

長による開会の辞、および日本女子大学被服学科長の森理恵教授のあいさつに続いて、18日に4件、19日に8件の口頭発表が行われ、活発な質疑応答が行われました。作品・ポスター展示は、19日にパワーポイントを用いてのショートスピーチがあり、午後には展示の前で質疑応答が行われました。

2. 特別講演

小説家の千早茜氏と、京都服飾文化研究財団（以下ではKCI）のキュレーターである筒井直子氏のおふたりによる講演が行われました。

千早氏は、2008年、『魚神（いおがみ）』で第21回小説すばる新人賞を受賞し、翌年、同作で泉鏡花文学賞を、2013年に『あとかた』で島清恋愛文学賞を受賞されました。また同年、『あとかた』、2014年に『男ともだち』で直木賞候補となったご経歴があり、新進気鋭の小説家でいらっしゃいます。

筒井氏は、KCIにおいて学芸、司書、教育普及を兼務されると共に、広報誌『服をめぐる』の編集をなさっています。また最近では、モスクワ・クレムリン

服飾文化学会 第20回大会・総会 特別講演
日本女子大学家政学部被服学科主催

服飾から物語へ
—小説家が紡ぐ服飾作品の言葉をめぐって—



破れた服。壊れた心。
消せない記憶。
なほせない傷みに寄り添って、
わたしたちはここで生きていく——
一歩前に、もっと前に、
洋服と人間への愛に満ちた物語は、
あなたの勇気を後押しする。

千早茜
クローゼット
新潮社

講演者
千早茜(小説家)
筒井直子(京都服飾文化研究財団
(KCI)キュレーター)

気鋭の小説家、千早茜氏が2018年に上梓された『クローゼット』(新潮社)は、
京都服飾文化研究財団が収蔵する西洋の服飾作品とそれに携わる補修士、
学芸員らの取材をもとにした物語です。
本公演では、講師のお二方が、実際の服飾作品の画像とともに、
物語で表現された言葉を読み解いていきます。

2019年5月18日(土)14:15~15:45
日本女子大学 目白キャンパス 新泉山館1F大会議室
非会員の方は大会参加費(4,000円、学生1,500円)をお支払いください

特別講演の案内

美術館での「Elegance and Splendour of Art Deco」展等、国内外におけるファッション展の企画にも携わってこられました。

ご講演のテーマは、「服飾から物語へ—小説家が紡ぐ服飾作品の言葉をめぐって—」でした。内容は以下の通りです。

千早茜氏が2018年上梓した『クローゼット』(新潮社)は、KCIが収蔵する西洋の服飾作品とそれに携わる補修士、学芸員らの取材をもとにした物語です。この作品では登場人物たちの揺れ動く心情と歴史衣装の細かな描写が共鳴しあい、全編にわたり豊かな服飾の世界が展開されています。さらに歴史衣装の傷みや脆さが現代社会の暗喩として表現された点も読みどころの一つとなっており、多くの読者を惹きつける作品の魅力となっています。この小説のなかで紡がれた服飾作品の表現とはどのようなものなのか、おふたりは対談のような形で語ってくださいました。小説の中のことば、そして、KCIが収蔵している美しい服飾を交互にスクリーンに映し出しながら、作品が生まれた経緯について講演いただきました。服飾をめぐることばの

美しさと、小説の叙情性とが鮮やかに浮かび上がり、参加者のみなさまの好評を得ることができました。質疑応答も熱心に行われました。

3. 日本女子大学成瀬記念館と成瀬記念館分館見学

成瀬記念館と成瀬記念館分館(旧成瀬仁蔵住宅)を自由見学の形で開館いたしました。記念館は18日10時から14時の見学時間で、展示テーマは、「日本女子大学の授業」というものでした。分館は、10時から13時半という短い時間ではありましたが、大会に先立ち、こちらを見学される会員の方々もいらしたようです。天気が良かったこともあり、本学創立者である成瀬仁蔵の旧住宅の分館のほうは、2階からの眺めがとても良かった、という感想もいただきました。

4. 情報交換会

18日の夕刻に、場所を桜楓会館3階に移し、情報交換会が行われました。乾杯の音頭は元会長の能澤慧子先生がなさいました。情報交換会には、特別講演講師の千早氏と筒井氏も参加くださり、参加者の方々は、講演の興奮がまだ冷めやらぬ様子で、講師のおふたかと交流されていたことがとても印象的でした。会員のみなさまが楽しく会にご参加くださったことを、うれしく拝見しました。また会場にピアノがあったために、即興で塚田耕一先生が演奏くださったのも、素敵なハプニングでした。

5. その他

18日の午後、展示会場での質疑応答終了後、閉会しました。今年度も、末正真礼氏による展示作品の撮影が行われました。皆様のご協力をいただき、第20回大会を無事に終了することができましたことを、厚く御礼申し上げます。

(大会実行委員長、内村理奈)

●第20回大会・総会プログラム

5月18日(土)

・開会の辞 13:00~13:05 長崎巖会長

・口頭発表 13:05~14:05

♣座長 小山直子(昭和女子大学(非))

A-1 明治初頭の学生服に関する一考察

～学生服は何を原型としたのか

株式会社武器屋 磯野圭作

- A-2 明治年間の横浜・東京における日本の洋服仕立て業者－組合設立と米英独清業者との関係から見えること－

お茶の水女子大学グローバルリーダーシップ研究所
平田麻里子

❖座長 菅野ももこ（女子美術大学美術館）

- A-3 20世紀初頭のFeminaにみられる男性的要素のある服飾表現

日本女子大学大学院人間社会学研究科生活学専攻
山口永莉華

- A-4 マリアノ・フォルチュニイ作《デルフォス》のシルク・サテンについて－同時代の日本産輸出縹子織物との関連－

東京家政大学博物館 三友晶子

・特別講演 14:15～15:45

・講演内容：服飾から物語へ

－小説家が紡ぐ服飾作品の言葉をめぐって－

・講師：千早茜氏（小説家）

筒井直子氏（京都服飾文化研究財団
（KCI）キュレーター）

・総会 15:55～16:25

・情報交換会 16:40～18:00

・自由見学

成瀬記念館

成瀬記念館分館（旧成瀬仁蔵住宅）

成瀬記念館 展示テーマ「日本女子大学の授業」

5月19日（日）

・口頭発表 9:15～11:15

❖座長 大川知子（実践女子大学）

- B-1 着用者に無理なくフィットする呼吸計測可能なスマートウェア

徳島文理大学 短期大学部 藤本和賀代

- B-2 ビュスティエの造形研究

杉野服飾大学服飾学部服飾学科 服飾造形研究室
○水野真由美 安部智子

- B-3 ヤングレディスファッションのミックス・スタイル－ファッション・クラスターの提案にむけて－

共立女子大学 宮武恵子

❖座長 中川麻子（大妻女子大学）

- B-4 日本人の衣生活における和服の位置づけに関す

る－考察－高等学校家庭科の学習内容から－

法政大学国際高等学校 伊東奈々

- B-5 被服教育における伝統的着物とファッション着物の取り組みの可能性－教育効果について－

共立女子大学 ○田中淑江 高橋由子 宮武恵子

- B-6 服飾教育におけるデザイン理論の系譜

杉野服飾大学 鈴木桜子

❖座長 伊藤瑞香（和洋女子大学）

- B-7 「杉沢比山」翁直垂の材料と技法に関する調査研究－袖部－

文化学園大学 角谷彩子

- B-8 鹿鳴館時代の衣裳の修復－鍋島栄子夫人の夜会服－

大妻女子大学 大網美代子

・ポスター・作品展示

ショートスピーチ 11:25～12:05

❖司会進行 大崎綾子（女子美術大学）

- C-1 IoTロボットナースの衣服とインタラクションにおける印象評価

徳島文理大学 藤本和賀代

- C-2 西表島における芭蕉繊維の利活用

多摩美術大学 深津裕子

- C-3 1880年頃の授乳用コルセットの構造と特徴について－レプリカ製作を通しての分析－

文化学園大学大学院 陳 徴

文化学園大学 砂長谷由香

- C-4 古着物を利用した現代服の制作－大島紬－

文化学園大学 高木幸子

- C-5 副資材を使用した装飾技法について－ファスナーを使用したデザイン発想－

文化学園大学 小出 恵

- C-6 フレアスカートの裾上げ始末によるシルエットの違い

文化学園大学 佐藤 綾

- C-7 芸術作品から着想を得た衣服製作

文化学園大学 梅田悠希

- C-8 19世紀における裁縫雛形教材（渡辺学園）と英国製子ども服の縫製方法の比較・検討

東京家政大学 杉野公子

・作品・ポスター展示の説明・質疑 13:10～14:10

C-1～C-8の各作品前で発表者が説明

特集記事 展覧会「ドレス・コード?——着る人たちのゲーム」紹介

石関 亮（京都服飾文化研究財団キュレーター）

京都服飾文化研究財団（KCI）は、京都国立近代美術館（MoMAK）と共同で服飾の展覧会を定期的に企画・開催している。これまでも、服飾あるいはより現象的な側面も含めたファッションについて、多角的・領域横断的に検証する展覧会を行ってきた。近年は国内外問わず衣装展やファッション分野の展覧会が増え、中にはメトロポリタン美術館の「Heavenly Bodies」展（2018年）のように美術館の歴代最多入場者数を塗り替える（1,659,647人）など、興行的にも注目度の高い展覧会ジャンルにもなっているが、KCIの展覧会もそうした発展の歴史に先鞭を付ける、あるいは流れに掉さす内容のものだったと自負している。

今回の「ドレス・コード?——着る人たちのゲーム」展は、服飾文化の多様性と多層性を考察するKCIのこれまでの展覧会の方針を継承しつつ、服飾史やデザイナーの創造性や固有性を主題化するのではなく、現代社会における「着る」または「装う」という行為について考えることを目指している。人は「生まれた時の姿のまま」でいることはできず、何かしら装うことを通してある時は自己表現や自己認識を行い、ある時は他者との差異化や同一化を図りながら社会的な生を確立している。そこでは、〈私〉を見る他者の視線があり、〈他者〉を見る私の視線と交錯しながら「見る／視られる」関係性の網目を構築している。〈着る服を選ぶ〉という私たちの日常的行為に暗黙知のルールや規範（＝コード）が存在しているのは、そうした前提があるからだといえる。

本展でタイトルに掲げた「ドレス・コード」とは、もちろん「特定の場所や場面で身につけるべき服装についての決まり」（『広辞苑』）だけを意味するものではない。装いのコードは多義的で重層的だ。「コード code」は「規範、法典」であり、「記号」であり「暗号」である。コンピュータプログラムや遺伝子における関連した情報体も「コード」だ。それらの関係構造を詳細に分析すれば装いにおける〈コードの体系〉を解明することができるかもしれない。本展はそこに踏み込まず、着る主体である私たちが、複雑で変わりやすいこうしたコードとどのように向き合っているか——遵守したり、逸脱したり、無関心を装ったり……。無知で気づかない場合もあれば、それが新しいコードを生み出すきっかけにもなる——を、多角的に選出した作品で紹介することに主眼を置いた。

ここではひとつの出展作品の紹介に留めたい。オラ

ンダ人アーティスト、ハンス・エイケルブームは、25年以上もの間、世界各地の街頭で通行人のスナップ写真を撮り続け、《Photo Notes》というシリーズを発表する。興味深いのは、同じ日、同じ場所で短時間に撮影された類似の服やアイテムを身につけている人たちだけを並べた作品であること。被写体に対するエイケルブームの視線は、もちろん流行の装いへの憧れや称賛ではなく、同質化するファッションへの批判や警鐘でもない。「服装がカブる」という偶発的で類発的な出来事に対する彼の中立的な距離感のおかげで、鑑賞する私たちも各々のファッションに対する距離感でもって作品を解読することができる。

他者との差異化か同一化か、個性の表出か集団への帰属か、「私は何者か」という立場の表明か「何者になりたいか」という欲望の実践か——。私たちが着る服を選ぶ時、あるいは他者が着ている服を目にした時に、果たして私たちは何を思っているのだろうか。その感情は一貫性や恒常性のあるものなのか、それとも選択的、文脈依存的なのか、はたまた複数のものが混在しているのだろうか。こうした問いは、展覧会の来場者だけでなく、「人間にとって『服飾とは何か』の問題」を考え続ける私たち学会員こそが常に自問するべきものではないだろうか。



Photo Notes
August 18, 2001
Amsterdam
101.11 - 10.00

ハンス・エイケルブーム
《フォト・ノーツ 1992-2019》1992-2019年
インクジェットプリント 作家蔵

2019年度 第20回 夏期セミナーの報告

第20回となる令和元年度夏期セミナーは2019年8月20日(火)～22日(木)の3日間の日程で、フランスのパリを基点にノルマンディー地方にて開催されました。

第1日目は、オペラ座近くにあるエミトラベル・サポートラウンジにて集合し荷物を預け、各自で昼食を済ませた後、専用の大型貸切バスにて出発しました。セミナーには日本人ガイド兼通訳として、パリでアパレル分野のお仕事をした経験のある伊藤廣美さんが同行してくださいました。

バスはコンコルド広場からシャンゼリゼ大通りを抜け、凱旋門を眺めながら最初の目的地である「トワルド・ジュイ」(Musée de la Toile de Jouy)に向かいました。

トワルド・ジュイはヴェルサイユにほど近いパリ近郊の街、ジョイ=アン=ジョザス(Jouy-en-Josas)にあり、伊藤さんの楽しい説明を聞きながら、約1時間ほどで到着しました。「トワルド・ジュイ」とは木版・銅板を用いてプリントされた生地を指し、この場所で生産されていました。フランスの伝統的なプリント技術として広く知られ、ヴェルサイユ宮殿の室内装飾にも用いられていました。専任スタッフの方の解説を聞きながら、館内を見学します。マリー=アントワネットやナポレオンも訪れたという老舗マニファクチュアの歴史を振り返る資料が展示されていました。木版から始まったプリント技術、エッチングを利用した銅板技術への発展、植物染料等の説明に、参加者全

員が熱心に聞き入りました。参加者からは多くの質問が出て、スタッフの方の説明にも熱が入り、予定時間をオーバーしながら、じっくりと見学をしました。

館内見学後は再びバスに乗り、ルーアンに向かいました。ルーアンはノルマンディー公国の首都として栄えた街で、歴史的な街並みと、その中心にはモネの連作に描かれたノートルダム大聖堂で知られています。またジャンヌ・ダルクの最期の地でもあり、処刑の場所はジャンヌ・ダルク教会が建っており、多くの観光客が集まっていました。ルーアンで宿泊するホテルMercure Rouen Centre Cathedraleは、ノートルダム大聖堂にほど近い旧市街にあり、石畳の街並みを歩きながら向かいました。チェックイン後はルーアンを代表するレストラン「ラ・クーロンヌ」(La Couronne)で懇親会となりました。このレストランは1345年開業したフランスで最も古いオーベルジュとして有名です。大きな個室に豪華に設えられたテーブルにつきました。開会にあたり長崎巖会長からご挨拶を頂き、乾杯と続けました。食事は伝統的なフランス料理のフルコースで、特産のシードルやワインを召し上がった方も多く、楽しく談笑しながら懇親を深めました。また、夕食後は大聖堂のプロジェクトマップピングを思いかけず鑑賞することができました。中世の面影が深い街並みに、最新技術で作り出された迫力のある華やか映像が彩る様は素晴らしいものでした。

2日目は早朝6時半よりホテルで朝食を取り、7時半にバスにて出発しました。2日目最初の目的地は、レースで有名な街、アランソン(Alençon)です。アランソンレースは、アランソン発祥のニードルレースの一種として広く知られ、「レースの女王」とも称されます。レースの製造は16世紀から始まり、ルイ14世の治世においては王立レース工房が設立されました。ヴェネツィア風の製品をされていましたが、その後は独自の様式を生み出し、世界に名だたるアランソンレースを作り上げました。訪れたミュゼ・デ・ボザール・エ・ド・ラ・ドンテール(Musée des Beaux-arts et de la Dentelle)は、アランソンレースの常設と製造方法の展示を見ることが出来る博物館です。

建物は歴史を感じさせる外壁に囲まれた小さな博物館ですが、展示されているレースの数々のクオリティが非常に高く、また繊細なレースの製造技術の解説展



ルーアン大聖堂の前にて



1日目懇親会の様子



レース博物館見学

示も詳しいものばかりでした。こちらでも専門のガイドがつき、一つ一つの展示について解説がされますが、その都度、参加者の皆さんから質問が止まず、ガイドの方も手振りや映像を使いながら、説明してくれました。レースの繊細さと豪華さ、技術の高さに驚嘆すると共に、現在でもこの歴史と技術が受け継がれ、若手の職人育成がされていることに感心しました。ここでも予定時間をオーバーするほど参加者の皆さんは熱心に見入り、充実した時間を過ごしました。

ランチは同じくアランソンにあるフレンチレストラン、リヴ・ドロワット (Rive droite) で頂きました。こちらでは洗練された現代風のフランス料理を、美しいテラスのあるお部屋で頂きました。

昼食後はまたバスに乗り、午後の目的地のバイユー (Bayeux) と向かいます。途中はフランスの田園風景が広がり、ノルマンディー地方の美しい景色をバスの窓から眺めながら、2時間ほどのドライブを楽しみました。

バイユーでは、世界的に有名な「バイユーのタペストリー」を展示しているタペストリー美術館 (Musée de la Tapisserie de Bayeux) を訪れました。1066年のノルマン・コンクエスト (ノルマンディー公兼イングランド王ウィリアム1世によるイングランド征服) の物語を麻布に毛糸で刺繍したタペストリーは、短辺50cm、長辺約70mにも及ぶ大作品です。11世紀のフランスとイングランドに関わる歴史的遺物であり、また当時の服装や武器軍船、戦闘方法などを伝える貴重な史料です。

館内は世界各国からの観光客で賑わっていました。入口で日本語版のオーディオガイドを受け取り、薄暗い館内に広げられたタペストリーを鑑賞します。長いリネン地に太めの毛糸で刺繍された図柄は素朴でありながら、当時の人々の息遣いが伝わるような臨場感に溢れ、壮大な物語の中に引き込まれていくようでした。2階では、染料や刺繍技法の解説と材料、復元した鎖帷子や船などの展示品を見ることができました。バイユーの街にも大聖堂があり、荘厳で華麗なステンドグラスを見物後、再びバスに乗り込み、今夜のホテルがあるグランヴィル (Granville) を目指しました。

グランヴィルはノルマンディー地方の港町で、高台の崖から紺碧の海が見渡せる美しい街です。当日は船舶関連のイベントが開催されており、海に向かう急な坂道にはたくさんの車が駐車され、色とりどりの三角旗が飾られた様子は、さながら映画のワンシーンのようです。宿泊したホテルMercure Grandville Franceは、部屋の窓から海が見え、館内からは直接、海辺の遊歩道に出ることができました。夕食はホテル近くのシーフードレストランで頂きました。賑やかなスタッ

フに囲まれて、魚料理を中心のディナーを楽しみました。夕食後は、夜の海辺を散歩する方もいたようです。

翌朝は、各自で街歩きを楽しみました。グランヴィルの海辺は肌寒く、澄んだ海の水は深い紺色をしています。早朝から砂浜のプールで泳ぐ現地の人々を眺めた後は、朝食を取りチェックアウトし、バスに荷物を預け、最後の目的地であるクリスチャン・ディオールの美術館、ミュゼ・エ・ジャルダン・クリスチャン・ディオール (Musée Musée et jardin Christian Dior) に徒歩で向かいました。

第2次世界大戦後のパリ・オートクチュールを牽引したクチュール、クリスチャン・ディオールの生家を美術館にし、夏の間だけ公開しています。展示はディオールの設計とも言われる美しい庭も公開されています。私たちは団体予約のおかげで最初に入ることができ、まだ人気の少ない館内をじっくりと見学させてもらえました。瀟洒なピンク色の外壁の建物は大きくはありませんが、どの部屋にもディオールの作品が所狭しと展示され、参加者の皆さんは一つ一つをじっくりと鑑賞しました。訪れた時期は、モナコ王妃であったグレース・ケリーが着用した作品を中心とした展覧会が開催されており、ディオールがデザインした華麗なロイヤルファッションの世界を堪能しました。展覧会を鑑賞後は、建物を囲む美しい庭を思い思いに散策しました。庭は色とりどりの美しい花々が咲いており、周囲には花の香りが漂っていました。時間のある方は庭のカフェでお茶を飲みながらディオールの世界観を楽しみました。

ランチは同じくグランヴィルにあるシーフードレス



ディオール美術館の様子



クリスチャン・ディオール美術館にて

トランにて、セミナー最後の食事を賑やかに楽しみました。食後のデザートはノルマンディー特産のりんごのタルトを堪能しました。

食後は再びバスに乗り、フランスの田園風景を眺めながらパリへ向かいました。途中でパーキングエリアにて休憩し、約4時間かけてパリに戻ってきました。パリ市内の近くでバス車内で長崎会長から閉会のご挨拶を頂き閉会式となりました。午後6時頃に凱旋門周辺から数カ所に分かれて停車し、それぞれの帰路につきました。

2024年のパリ・オリンピックに向けた市内の工事が多く、長距離のバス移動では渋滞が心配されましたが、ほとんど影響はなく、好天にも恵まれた3日間でした。普段では訪れることが難しいノルマンディー地方の美術館、博物館において、専門的な解説を受けながらのセミナーは学ぶ事が多く、実りあるものでした。合わせて、服飾分野に造詣が深いガイドの伊藤さんの通訳によって、より理解を深めることができました。緑豊かな風景や各所の歴史的史跡や大聖堂を見学し、またレストランでの地方色ある食事によって、20周年にふさわしい大変充実したセミナーとなりました。なお参加者は一般25名、学生2名、計27名でした。
(夏期セミナー担当 中川麻子)

第20回 (令和元年度) 夏期セミナー スケジュール

8月20日 (火)

10:30: 集合・受付 エミトラベル サポートラウンジ
12:30: 出発 (貸切バス利用—バスガイドあり)
14:00~15:00: Musée de la Toile de Jouy 見学 (専任ガイドの解説)
15:00 : ルーアンに向けて出発
17:30 : ルーアン着、ホテルへチェックイン
20:00~22:00: La Couronne にて懇親会
ルーアン泊 Mercure Rouen Centre Cathedrale

8月21日 (水)

07:30 : ホテル出発 (貸切バス利用)
10:00~11:30: Musée des Beaux-arts et de la Dentelle 見学 (専任ガイドの解説)
11:30 : 昼食 Rive droite
13:30 : バイユーに向けて出発
15:00~16:30: Musée de la Tapisserie de Bayeux 見学
16:30 : グランヴィルに向けて出発
18:00 : グランヴィル着
20:00~22:00: 夕食 Maison Pleville
グランヴィル泊 Mercure Grandville France

8月22日 (木)

09:15 : ホテルチェックアウト後、バスに荷物を預ける。徒歩にて美術館へ移動。
09:40~11:20: Musée et jardin Christian Dior 見学
11:40~13:30: 昼食 La Pirate
13:30 : パリに向けて出発
18:00 : パリ到着、車内にて閉会・解散

“20周年記念公開シンポジウム”のご案内

服飾文化学会は2000年1月29日、21世紀にむけ「衣」に対する新しい認識をもつ学会を目指して設立し、20周年を迎えることとなりました。これを祝して“記念公開シンポジウム”を開催いたします。

日 時: 2019年11月9日 (土) 13:00~17:00

場 所: 文化学園大学D70番教室

テーマ: 服飾文化学会20周年記念公開シンポジウム

—服飾文化研究の現在と未来—

プログラム

13:00~13:30 受付

(事前に服飾博物館を自由見学)

13:30~13:35 開会の辞: 長崎 巖会長

13:35~13:50 服飾文化学会の歩み: 福田 博美

13:50~14:20 基調講演: 会長 長崎 巖

テーマ「服飾研究の多様な手法」

14:20~14:30 小休憩

<第1部> 各研究領域より語る「服飾文化研究の現在と未来」

14:00~14:20 服装史領域: 内村 理奈

14:20~14:40 ビジネス領域: 大川 知子

14:40~15:00 博物館領域: 菅野 ももこ

15:00~15:20 構成学領域: 大網 美代子

15:20~16:00 休憩 (質問用紙回収)

<第2部> ディスカッション「服飾文化研究の現在と未来」

16:00~16:50 パネリスト: 会長・第1部講演者、司会: 菅野 ももこ

16:50~17:00 閉会の辞: 福田 博美

17:00~18:00 懇親会 (Bun Café)

尚、この行事は第20回研究例会に代えて実施いたしますのでご了承ください。

当日、開会前に文化学園服飾博物館「能装束と歌舞伎衣裳」展を無料でご覧いただけます。見学の際、フライヤーをご提示ください。また、シンポジウム終了後は懇親会 (参加費無料) を予定いたしております。

未来を見据えた服飾文化学会の記念行事となりますように皆様のご参加をよろしくお願い申し上げます。

(研究例会担当 福田博美)

会計報告

①服飾文化学会平成30年度 収支決算書 (平成30年4月1日～平成31年3月31日)

項目	予算	決算	予算との比較 △減	備考
収入				
(1)年会費	1,400,000	1,305,000	△ 95,000	H31正8,000×2名 H30正8,000×191名 H30学3,000×11名 H29正8,000×11名、学3,000×1名 H28正8,000×7名、学3,000×1名
(2)入会費	10,000	13,500	3,500	正1,000×12名、学500×3名
(3)年間購読料	51,000	51,000	0	1,000×17件
(4)学会誌掲載料	1,100,000	392,700	△ 707,300	Vol.1 (4名)・通年度(2名)、3,000×10名 (寄附金等)
(5)その他	0	33	33	料子
(6)繰越金	269,404	269,404	0	
収入計 A	2,830,404	2,031,637	△ 798,767	
支出				
(1)経費				
1)総会運営費	150,000	150,000	0	
2)学会誌発行費	1,680,404	706,368	△ 974,036	学会誌706,368
3)事務管理経費	200,000	87,497	△ 112,503	事務費86,645、財務852
4)通信費	100,000	33,480	△ 66,520	論文12,430、作品4,620、庶務16,430
5)会報発行費	180,000	143,960	△ 36,040	会報No.34-35
6)事務用品費	70,000	76,054	6,054	封筒(3種)印刷
7)会議費	50,000	46,058	△ 3,942	
8)交通費	40,000	25,950	△ 14,050	監査・理事会交通費(実費上限2,000円)を含む
9)雑費	10,000	0	△ 10,000	
(2)事業費				
1)事業費A	60,000	32,197	△ 27,803	研究例会
2)事業費B	160,000	136,135	△ 23,865	論文発表会
3)事業費C	0	0	0	理事選挙費用
(3)広報費	120,000	136,642	16,642	HP更新料、ドメイン更新料
(4)交流費	10,000	5,270	△ 4,730	生活科学系コンソーシアムH30年度会費
支出計 B	2,830,404	1,579,611	△ 1,250,793	
収支差額 A-B	0	452,026		
次年度繰越金	0	452,026		

②服飾文化学会 平成30年度 財政調整積立金収支報告書

項目	収入	支出	残高	備考
前年度繰越金			1,478,502	
大会・総会剰余金	125,887			
夏期セミナー剰余金	71,490			
			1,675,879	
支出				
服飾文化基金	1,000,000			H21年度
	1,000,000		2,000,000	H22年度

③服飾文化学会 平成31年度(令和元年度)収支予算(案) (平成31年4月1日～令和2年3月31日)

項目	予算額	前年度	前年度との比較 △減	備考
収入				
(1)年会費	1,400,000	1,400,000	0	
(2)入会費	12,000	10,000	2,000	
(3)年間購読料	54,000	51,000	3,000	
(4)学会誌掲載料	700,000	1,100,000	△ 400,000	
(5)その他	0	0	0	
(6)繰越金	452,026	269,404	182,622	
財政調整積立金の取崩し	0	0	0	
収入計	2,618,026	2,830,404		
支出				
(1)経費				
1)総会運営費	150,000	150,000	0	
2)学会誌発行費	900,000	1,680,404	△ 780,404	カラー写真補助を含む
3)事務管理経費	200,000	200,000	0	
4)通信費	100,000	100,000	0	
5)会報発行費	180,000	180,000	0	
6)事務用品費	80,000	70,000	10,000	
7)会議費	50,000	50,000	0	
8)交通費	60,000	40,000	20,000	監査・理事会交通費(実費上限10,000円)を含む
9)雑費	10,000	10,000	0	
(2)事業費				
1)事業費A	60,000	60,000	0	研究例会
2)事業費B	160,000	160,000	0	論文発表会
3)事業費C	60,000	0	60,000	理事選挙
(3)広報費	200,000	120,000	80,000	HP更新・作成費、ドメイン更新費、メルマガ配信費用
(4)交流費	10,000	10,000	0	生活科学系コンソーシアム会費等
小計	2,220,000	2,830,404		
(5)予備費	398,026	0		
計	2,618,026	3,830,404		

④財政調整積立金及び服飾文化基金の増減

	H30年度末 残高	当期増加額	当期減少額	当期残高
財政調整積立金	1,675,879	0	0	1,675,879
服飾文化基金	2,000,000	0	0	2,000,000

* H22年度より特別会計の名称を財政調整積立金に変更

***** 事務局より *****

●新入会員 (敬称略 申し込み順)

正会員

高 村 是 州 (文化学園大学)

佐 藤 綾 (文化学園大学)

根 本 賀奈子 (文化学園大学)

コルネーエヴァ・スヴェトラナ (帝京大学)

長 井 ま み (女子美術大学染織文化資源研究所)

学生会員

山 口 永莉華 (日本女子大学大学院家政学研究科)

陳 徴 (文化学園大学大学院)

高 木 たまき (京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科)

●退会者

大 澤 香奈子

羽 生 京 子

常 見 美紀子

森 淳 子

上 松 麻 樹

牟 田 緑

◇◇◇◇◇ 展覧会のお知らせ ◇◇◇◇◇

■「ドレス・コード?——着る人たちのゲーム」

会場：京都国立近代美術館

会期：8月9日(金)～10月14日(月・祝)

■「能装束と歌舞伎衣裳」

会場：文化学園服飾博物館

会期：10月7日(月)～11月29日(金)

■「絹と木綿」

会場：東京家政大学博物館

会期：10月17日(木)～11月22日(金)

■「女子美染織コレクション展Part8 コプトの染織」

会場：女子美術大学美術館

会期：11月13日(水)～12月21日(土)

■「アフタヌーンティーのよそほひ—英國紅茶物語」

会場：神戸ファッション美術館

会期：11月23日(土)～2020年1月19日(日)

■「パリ世紀末ベル・エポックに咲いた華

サラ・ベルナルの世界展」

会場：渋谷区立松濤美術館

会期：12月7日(土)～2020年1月31日(金)

※会期中一部展示替えあり

◇◇◇◇◇ 書籍紹介 ◇◇◇◇◇

『裁縫雛形 渡辺学園裁縫雛形コレクション』

東京家政大学博物館編著 光村推古書院 2019年8月

——学会誌について(お詫びと訂正)——

会報誌No.37の「学会誌の改訂について」に誤りがありましたのでお詫びして訂正します。

誤) タイトル英文字は石山彰先生の文字を継承致しました。

正) タイトル英語表記は前学会誌の翻訳を継承致しました。

(学会誌編集委員 玉田真紀)

会報 No.38：2019(令和1)年9月30日発行

編集発行人：服飾文化学会

事務局：101-8437 東京都千代田区一橋2-2-1

共立女子大学 被服平面造形研究室

TEL：03-3237-2463

E-mail：fukubunjim@gmail.com

URL：http://www.fukusyoku-bunka-gakkai.jp